

あきおおた人情田舎体験 (民泊) 特集

事業がスタートしてから3年目を迎える【あきおおた人情田舎体験】(民泊受入れ事業)は現在、民泊を目的とした来町校が平成24年2校、平成25年4校、平成26年9校と年々倍増しております。

これは偏に民泊事業を支援してくださっている町民の皆さんの人情が、街の子ども達に決定的に不足している、人を思いやることの大切さを何気ない日々の生活を通じて学べると、都市部の学校で当町の評判が徐々に広がっていることの何よりの証拠なのです。

今回、あるご家庭に生徒のお母さまから感謝の手紙が届きましたので紹介します。

初めまして、この度ご縁あって娘がお世話になり本当にありがとうございました。

今回中学校の修学旅行ということで最高の思い出をありがとうございました。

私は親の2代目を継ぐ街の小さな電気屋を営んでおります。娘が生まれてからもずっと商売一筋でどちらかという娘にはいつもさみしい思いをさせて参りました。ご飯も夜9時頃と、本当にかわいそうな時間までさみしい時を過ごさせています。ただ娘には妹がいますので、いつも姉妹2人でのいるといった感じです。

ご夫婦に出会うまで反抗期が酷く、理由も話さず何度も学校を休んだことがありました。自分の気持ちをおさえてしまうことが多々ありました。

修学旅行から帰ってきて娘は生まれ変わったかのように洗濯物をたたみ、ご飯を食べた後、食器を洗い部屋をかたづけ、本当に言葉では言いきれないくらい大きく成長して帰ってきました。

「どんなことをしたの?」と聞くといろいろ話してくれました。いちごやしいたけをたくさん食べたこと、花火をしたこと、マッチのつけ方を教えてくれたこと、夜トランプでババ抜きをしたこと、雨が降ってきたので障子張りをしたこと。本当にいろんなことを話してくれました。

私ももっと子どもと向き合わないといけないと反省しました。その夜家族でトランプをしました。とても楽しい時間を過ごし、今まで忘れていた時間がよみがえってきた気がしました。

この時代、物がなんでもある時代、つい物で解決させているのだなと考えさせられました。

娘にとってかけがえのない最高の出会いをありがとうございました。お体に気をつけてください。本当にありがとうございました。また機会がありましたら会えるといいですね。ではさようなら。



あきおおた人情田舎体験 (民泊受入れ事業) を私達は次のように位置付けています。

- ・日本の未来を担う子どもたちのために、小さな当町が教育的貢献が出来る数少ない事業です。
 - ・町民一人ひとりが主人公になれる数少ない事業です。
 - ・町外に若いファンを作り、町内経済波及効果を明確に押し上げられる数少ない事業です。
 - ・多少の苦労はありますが、若者と思い出と感動を共有できる数少ない事業です。
 - ・皆さんの有している昔ながらの経験や苦労話を後世に引き継ぐことができる数少ない事業です。
- 是非、この素晴らしい事業へのご参加を心からお待ちしております。

新規民泊引受け家庭募集中!!

安芸太田町人情田舎体験推進協議会
(事務局/観光協会・商工観光課)
☎28-1800 (担当/小田・小笠原)